



て鐵鋼其の他に關しましての各方面の新しき狀勢を知る事が出来ました事は誠に欣幸の至りであります。深く講演者諸君に敬意を表しますと共に講演中司會して戴きました皆様に厚く御禮申し上げます。

次に御報告申上げ度い事があります、御承知の通り、香村賞は毎年一回贈呈することになつて居ります。本年は今回の大會迄に詮衡が間に合はぬでしたから次回の大會に贈呈する事にならうと思ひます、御含み置き願ひます。

明日からは三日間見學になります、諸君は豫定の通り各工場の御厚意に依つて見學を致されんことを望みます、之で講演會を閉ぢます。(拍手)

晚餐會 昭和 11 年 10 月 18 日(日) 午後 6 時開會

會場 福岡市舊柳町 新三浦

今回の晚餐會は現地實行委員方の御心付にて博多名物水たき料理を選定された、先づ金子、井上兩副委員長初め接待委員等は會場へ

先着され出席者を待受け食堂への案内等幹旋至り盡せり、席定まるや會長より一場の挨拶あり續いて寺野實行委員長招待者を代表し一場の挨拶あり相互の健康と共に協會の發展を祝して乾杯す、一同談笑裡に興味湧き互に舊交を温め新知を求め和氣霽々たり。

晚餐會開會の挨拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 水谷 叔彦君

御挨拶申上ます。講演會を終りまして晚餐會を開く事に當りまして……この大會につき殊に御盡力御後援に預りました委員各位、又工場見學を御快諾下されました工場方面の御方並に講演者君に御案内申上ましたところ斯く多數御光臨を得ました事は本會の光榮とするところであります、厚く御禮申上ます。

この度の大會は恰も九州鑛山學會に於ても其例會も同時に當地に於て開かれますにより同會と御相談を致しまして同會の冶金部の講演は本會の講演と合流して昨日と今日に互りて致した譯であります。

又見學も兩方共相互に参加し得ると云ふ相談の下に開きました次第で御座います。この度の大會は出席會員 350 名に達するやうな非常な盛會でありまして洵に欣幸に堪へぬ次第であります。之れは委員長始め委員各位の御熱心なる御盡力と各工場の御後援に依つて斯様な盛況を來たした事と存じます、厚く御禮申上る次第であります。

鐵鋼協會は常に朝野各方面より御援助御後援に領りまして昨今は會員も 2,200 名に達する様な盛況でありまして又連月増員致して居ります、洵に御同慶の至りであります、殊に昨年は鐵鋼に御關係の諸會社の特別なる御後援に預りまして事務所内に始めて圖書室を設け又兼て協會の希望でありました鐵鋼に関する有益なる資料の編纂に着手する事を得ました。會誌にて御報告してあります通り第一着手として鐵鋼要覽の編纂を致す事に定め、俵博士を編纂委員長に同副委員長に河村 驍博士に御願ひしまして着々進行中であります、來年中には刊行の運びになる筈であります又此機會に皆様に申上げて置きますが前會長故野田博士の記念事業が故人の知人に依りて企てられて居ります、この記念事業に寄附を得ました金は或る一部を除きまして殆ど全部鐵鋼協會に協會の圖書の充實、圖書室の整備の爲めに御寄附下さるそう御座います、協會に取りましては此上無い結構なる事でありまして、斯様な次第で我協會も物質方面に於てもだんだん惠まれて参りました、どうぞ會員諸君にはこの上共本會の發展に御盡力下されん事を希望する次第であります。

折角御案内致しましたが萬端不行届であり又御席も不順の處これあるべく恐縮に存じますが平に御寛恕下されましてゆるゆる御寛きを願ひます。又この地方の方々には御迷惑かとも存じられましたが東京方面の方には博多名物のこの「水たき」の方がよからうと云ふ委員の御心入れでこの處に開きました譯であります、どうぞ充分に御歡談を願ひます、之れで私の御挨拶を終ります。(拍手)

挨拶

實行委員長 工學博士 寺野 寛二君

御挨拶申上ます。本夕は私共をこの盛大なる御宴會に御招き下さいまして甚だ恐縮で御座います、厚く御禮申上ます。

本鐵鋼協會は創立以來未だ非常に古くなつて居られないに拘らず益々御盛大で御座います會員の數も非常に多く一寸要録を拜見致しましたが資産その他に於きましても非常に堅實な發達をして居られる事は私共甚だ心強く感じて居る次第であります。今日こちらで大會を御開き願ひまして多數有益なる御講演を拜聽致しました、尙斯界の權威者を始め多數の

方々の御集りを願ひました事はこの市と致しましてこの上なき欣びで御座います。厚く主催者に御禮申上る次第で御座います。この土地はほんとに御専門上見るべきものはないので御座いますがこの上共御盡力下さいましてこの地方を北九州と同様に將來共に色々な金属工業が発達するやうに御盡力あらん事を切望する次第で御座います。

簡単に御座いますが一言御挨拶を申上ります。

第3日 工場見學 10月19日(月曜) 第1班 曇

(1) 八幡製鐵所

同所本事務所には早朝より参集する會員夥しく、定刻午前9時30分には136名餘出席し、模型室參觀後會議室にて鶴瀨技師長の歓迎の辭、櫻井技術課長の作業状況説明に次いで谷口大會委員は随意見學日及び特別見學案内(1ton 試験熔鑪爐)に就いての注意を述べ、それより2班に分れて工場見學に向ふ。10時10分。

(イ) 徒歩にて二厚板、三小形、二中形、二大形、三大形の各工場を見學し、それより便乗列車にて軌條工場に向ひ、同工場見學後徒歩にて新第一製鋼工場に至り、同工場を見學す。

(ロ) 特別見學希望者22名はバスにて試験熔鑪爐實驗室に至り谷口博士より實驗の目的、沿革及び各國小熔鑪爐の比較等の説明の後を受け、八木工學士はその研究結果に就き詳細報告し、それより該爐の出銑を見學し再びバスにて新第一製鋼工場に至り、他班と合して見學し、一行は徒歩にて六分塊工場に至り、同工場見學し、そこより便乗列車に乘車し、洞岡製銑工場にて500吨爐の出銑を見學し同工場にて本邦最大の700ton及び目下建設中の1,000ton 熔鑪爐を視、待合せる便乗列車に車中より骸炭及び副産物工場を眺め、説明を聞き、二銑力工場に行き、見學後徒歩にて最後の新設高級鋼板工場に至り本邦に於ける最新最大なる同工場見學後12時55分便乗列車にて本事務所へ引返し、茲に世界有数の民間大會社の見學を終る。

而して同所食堂に参集し、鶴瀨技師長の挨拶に對して河村協會監事一同を代表して謝辭を述べ、併せて鐵鋼報國の信念に向つて邁進される御決心の程を披瀝され、同所饗應の晝食を共にす。食後A.B兩班に分れて1時50分各々自動車にて出發す。

A 班

(A. 2) 安田製釘所

一行54名。到着後瀧川所長の挨拶及び河村監事の謝辭あり、全員を5班に分ち製線、洗滌、製釘、磨釘、製檢作業を見學し、殊に製釘作業の機械化せるに一同驚嘆す。2時40分同所を辭し、徒歩にて日本タールに至る。

(A. 3) 日本タール牧山工場

工場長代理山田製造部長の歓迎の辭に對し、河村監事起つて同工場の古き歴史と、我同骸炭工業に於ける奮闘を讀し、此後の發展を祈る挨拶あり。一行42名を8班に分ち、ソルバー式骸炭爐及び各種副産品製造状況を見學すると共に、同所が狹隘なる敷地を實に良く利用せるに感嘆せり。

斯くして希望者約20名は、前記兩會社の好意による6臺の自動車に分乗して、河内貯水池(八幡製鐵所)に向ふ。工費約450萬圓を費し、東洋一を誇る老大な規模と、眼鏡橋の佳景並びに四圍の溪谷を賞し4時45分再び自動車にて歸路につく。

B 班

(B. 2) 黒崎窯業會社

午後1時40分會員57名はB・2、B・3兩會社の好意による自動車にて黒崎窯業會社に至り、高良技師長の挨拶と作業概況の説明のありし後、直ちに工場見學を行ひ、それより自動車にて安川電機製作

所に向ふ。午後3時20分。

(B. 3) 安川電機製作所

安川社長より挨拶、島岡協會監事の謝辭ありたる後、作業状況の説明を受け、製作、熔接、鑄物工場と順次に見學し、最後に完備せる従業員食堂に一驚し、4時30分辭す。

それより河内貯水池遊覽希望者43名は、上記二會社の好意による15臺の自動車に分乗して、延々線の山の手道路を縫ひ、八幡製鐵所の全景を眺めつゝ、河内貯水池に向ふ。途中A班一行の歸路に出會ふ。暮れ行く四圍の山々は秋深くして未だ色つかず、暫時池畔に興じ、再び車上の人となり、歸途大噴水を賞す。時に5時35分。

第4日 工場見學 10月20日(火曜) 晴

A 班

(A. 4) 國産工業、戸畑製作所

(A. 5) 東洋製鐵會社戸畑工場

(A. 6) 共同漁業會社

午前9時15分迄に國産工業、戸畑製作所に参會する者約45名之を4班に分ち、模型、中子、調砂、鑄造、燒鈍、機械の各工場並びに可鍛鑄鐵品その他製品の陳列室を見學し、9時55分同所増設工事場の横を過ぎ、徒歩にて共同漁業會社へ行き、到着後金子大會副委員長の挨拶に次いで、箕田専務は歓迎の辭及び同社の事業概要を説明され、一同非常時食料問題に對する念を新にし、少憩後標本室にて珍魚及びトロール船の模型を參觀し、それより隣接の東洋製鐵會社に至り、3班に分れ空罐製造の製胴、罐縁作業、折曲機及び自働氣壓機等高速度の異様な機械作業を見學し11時30分同工場を辭し、次いで日本食料工業會社の製氷並びに冷凍室に至れば冷氣身に沁むを覺ゆ。再び共同漁業ビルに引返し、同社招待の晝食に舌鼓を打ち、12時50分前面の岸壁よりランチに乗船し、若戸の帆船にワンドフルを叫びつゝ對岸若松へ渡る。

(A. 7) 國産工業若松製作所

堀岡所長の挨拶に對して金子副委員長の謝辭後、全員を10班に分ち、各種ロール、大型及び特殊、鑄物場、旋盤工場並びに目下假設中焙の焙燒爐(爐徑約19尺)を見學し、徒歩にて東海鋼業會社に至る。

(A. 8) 東海鋼業會社

同社の製板、中形、小形各工場の壓延作業を見學し、控室にて井上工場長代理の挨拶あり、金子副委員長簡単に謝意を表し、再び便船にて戸畑市淺橋へ上陸し、直ちに諸會社好意の貸切電車2臺にて大里へ向ふ。

(A. 9) 櫻ビール會社

午後4時到着。丁度同着のB班と合し、直ちに工場に至り、懇切なる案内と詳細なる説明を聞き、又行政整理による現時の増税問題にも觸れてビールに就いての概念を深くした。

見學終了後、同社饗應の晚餐會に列し、林専務の諧謔を交へた挨拶に、金子副委員長は起つて衷心謝辭を呈し、デザートコースに入り製造部長のビールに關する漫談、谷口大會委員及び横倉九州鑛山學會評議員の感想等あり、最後に鐵鋼協會、九州鑛山學會及び櫻ビール會社の萬歳を三唱し5時40分和氣霽々裡に解散。